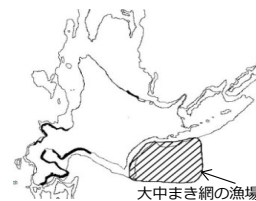


40.マイワシ

北海道周辺海域

主な漁業と漁期

まき網：6～10月
 定置網：6～11月
 さば・いわし棒受け網：5～9月
 タモすくい：5～11月



生態

◆分布・回遊

分布・回遊は、発育初期の海流による輸送によって大きく2つの様式に分けられます（沿岸、沖合加入群）。沿岸加入群は、黒潮周辺でふ化後、沿岸へ輸送され、沿岸漁場でシラス期から漁獲されます。沖合加入群は、幼魚期に黒潮により東方へ輸送され、黒潮親潮移行域で成長して、亜寒帯域で夏季に索餌をし、秋冬季に南下して漁場に参加します。いずれの加入群になるかは、産卵場周辺の海況によると考えられています。

◆産卵期・産卵場

卵の出現状況から、産卵期は11～翌6月、盛期は2～4月とされています。産卵場は資源水準によって変化し、1990年代以降は四国沖から関東近海の各地の黒潮内側域に形成されています。

◆成長・成熟

マイワシ太平洋系群

	体長(cm)	体重(g)
0歳	12	22.1
1歳	16	49.8
2歳	19	91.6
3歳	29	112.1
4歳	21	124.5
5歳	23	153.4

*) 2013～2015の漁獲物平均値より
 *) 年齢と体長の関係は、資源水準により大きく変化する
 *) 加齢の基準日：1月1日 寿命は7歳程度

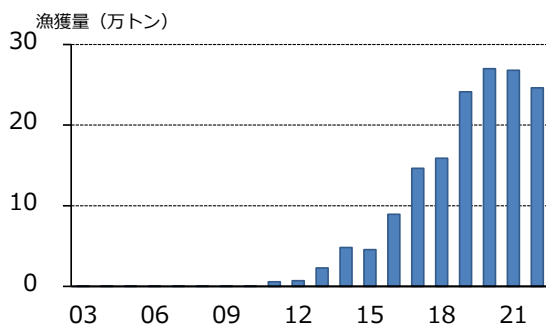
◎成熟年齢・体長

資源高水準期には、成長速度が低下して成熟が遅れましたが、近年では1歳で成熟が始まり、2歳ではほとんどの個体が成熟します。

資源評価

[評価年] 1月～12月
 [来遊量の指標] 漁獲量

2022年度の漁獲量は24.6万トンで、前年よりやや減少しました。2011年以降来遊量が増加し、道東海域でのまき網漁業が再開されたことで漁獲量は増加傾向となり、2022年の北海道への来遊水準は中水準と判断されました。太平洋系群の資源量、北海道における漁獲量、まき網CPUE及び9月浮魚対分布調査のCPUEで減少が続いているほか、今後漁獲の主体となる年級群に高い豊度が見られないことから、翌年にかけての来遊動向は減少と判断されました。



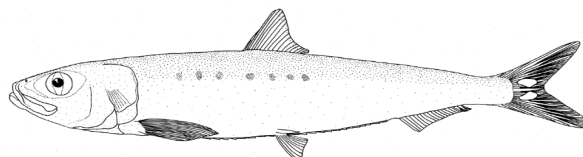
2022年度 の水準	😊 中水準	2023年度 の動向	↓ 減少
---------------	----------	---------------	---------

※都道府県も参加した国の資源評価結果を参考に本道周辺海域の資源状況を評価しています

資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

- TAC(漁獲可能量)管理
 2023年漁期の全国のTACは、太平洋系群で92.2万トン、対馬暖流系群で14.3万トンとなっており、北海道知事管理分は3.86万トンです。(2023年11月現在)



☆広域回遊魚種のため、資源管理には国・他県との連携が必要です。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係
 北海道立総合研究機構 釧路水産試験場調査研究部

電話 011-204-5477
 電話 0154-23-6222